



新設図書館の紹介
**美咲町立
 中央図書館**

禾本美紀



No. 104

美咲町は旭・中央・柵原の三町が三年前に合併してできた町で、人口約一万六千人余。岡山県の中北部に位置し、東西が約三十kmと細長い形をしています。町内には、西の旭地域には十年前に、東の柵原地域には八年前に図書館が設置され、蔵書はそれぞれ約四万冊あり、周辺の方々に利用されてきました。

しかし合併後、より身近に図書館を、という住民の声にこたえるために中央地域に三つ目の図書館を新設することとなりました。統合により廃校となった旧厚生小学校の校舎を活用し、五か月の改築工事を経て十一月五日、中央図書館（中央公民館併設）へと生まれ変わりました。

二階建の一階部分が図書館で、二階が公民館です。図書館の床面積は一七八㎡、収蔵可能冊数は一万一千冊です。外観は小学校の面影を残しており「懐かしい」と言われます。

天井は低めですが、窓が多く仕切りもガラスにして明るい印象になりました。また書架の高さを抑えて圧

迫感のない館内になっています。床はカーペット敷きで靴を脱ぐ必要がありませんが、バリアフリーで、階段には椅子式昇降機を設置しています。計画の段階で一番大切にしたのは、「親しみやすい居心地のよい空間」です。多くの図書館を見学させていただきました。大変参考になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。現在の蔵書は約九千冊（一般書五千冊、児童書四千冊）で、AV資料はありません。定期刊行物は新聞三紙・雑誌二十四タイトルです。開館に向けて約六千冊を購入したほか、県立図書館をはじめいろいろな方面からのご寄贈等により、書架をかなり埋めることができました。手に取りやすい実用書と小説、子どもの読み物と絵本にしほりました。利用者のご希望に対しては、まず町内の二館に依頼をしています。そして強い味方の「県内相互貸借」には大変助けていただいています。

昨秋に約三週間かけて、町内三館のシステムを統合しました。利用者カードも共通にしてリライトカードを導入しました。町内三館の全蔵書は約九万冊でしたが、バーコード体系が重複していたため、事前に約四万冊のバーコード貼り替え作業が必要でした。また各種のコード体系の統一や区分などのすりあわせも結構



時間のかかる作業でした。

システム関係以外にも、休館日・貸出規則・協議会規則・ホームページの作成・申請用紙の様式などなど、本当にたくさんのお話を話し合いました。そのおかげで司書同士のコミュニケーションがとれ、相談や協力がしやすい関係が築けたと思います。

町内の資料は館内OPACで一度に検索でき、貸出可否も色分けで見やすくなっています。利用者は予約した資料の受け取り希望館を指定でき、町内どこの館でも返却できます（AV資料は除く）。町内の資料搬送をこまめに行い、資料の活用を努めています。

各館の選書は今のところ別々に

行っています。各館の特色や利用傾向に合わせて選書していると、意外と重複せずに済んでいます。迷ったら連絡を取り合うようにしています。

美咲町中央地域には今まで図書館がなく、一度も利用したことがない方が多いようです。また、津山市や久米南町の図書館をよく利用させていたでいたことと思います。これから多くの方に地元の図書館になじんできていただき、少しずつ利用の輪を広げていきたいと思います。中央図書館といっても本当に小さなものですが、細長い町の中央部に位置しているという意味で、利用者の利便性を第一に他館と連携し努力していきたいと思えます。

学生会図書委員活動報告 くらしき作陽大学・ 作陽短期大学

(学生会図書委員長 青木秀史)

今年の学生会図書委員の活動としては主に選書を行いました。今年の図書委員は比較的人数が多く、一年生が四人、三年生が一人、四年生が四人と合わせて九人います。その九人で選書を行うと一人が大体三〜五冊選びますので、図書委員の選書本コーナーはとてバラエティー豊か

なものになります。図書館内のグループ視聴室で、本のカタログから本の内容について話し合いをしながら選書をしています。選書後は図書館の職員さんが発注や登録をしてくれます。貸出準備ができた本は、図書委員の選書本コーナーに本の感想や図書委員からのメッセージをつけて展示しています。その本を手にとつて読んだり、借りていたりする人も結構いて、自分たちの活動が図書館利用者の興味をひいていることを実感できます。

今年の一年生はとても個性的で、歴史物やオイルショックについての本など、今までにあまりないタイプの本を選んでいきます。作陽大学には食文化学部もあるので、もちろん食に関する本が選ばれることも多く、最近では「男の料理マニュアル 一心にしみるどんぶり」という本が入っていました。

僕が最近選んだ本ですが、「娘たちの性@思春期外来」という本です。思春期や性ということに興味を持っていて、どうして女性や男性の考え方に違いがあるのかとか、思春期の悩みや男女の違いなどを知りたいと思つてこの本を選んでみました。これから読むのがとても楽しみです。さて、次は「図書委員のつばやき」について書きたいと思えます。



「図書委員のつばやき」というのは、A四サイズの色画用紙に普段思つたことや、ちょっと気づいたことなど自由に色ペンを使って書いて展示したものです。例えば、飲み会で取り皿と灰皿を間違えて使ったとか、季節の移り変わりのこととか、本がたいしたことは書いていません。僕が委員会です。「つばやき書いてね」とお願いしても、「何を書けばいいんだらう」と委員の皆は悩んでいます。自分の中に伝えたいことや感じていることがあればすぐに書けそうなのですが・・・。そうした意味では読書はとても感受性や感性を豊かにできるものだと思います。普段考えられていること、感じていることや風景

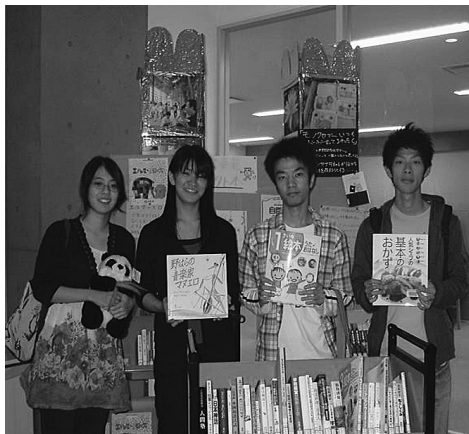
などを言葉にして伝えられるのが本だと僕は思います。

本を読んでいると、人の感じ方や表現方法の多さに驚かされます。美しい日本語や表現というのとはとても魅力的ですし、読んでいる人を引きつける魔力のようなものがあると思います。これからもそうした本に出会い、多くの本を読んできたいです。

(附属図書館司書 折橋美保子)

学生会図書委員は選書だけでなく、季節にあわせた館内のデコレーションを行っています。例えば、七夕には図書館の利用者が誰でも飾れるように笹と短冊を準備していました。クリスマスにはツリーの飾り付けを行っていました。

また、十八年度は学園祭にあわせ



て、企画展「作陽展」を行いました。調査結果をパネルにして展示したり、骨密度測定や楽器作りといった学部の特徴を活かした体験コーナーを設けたりして、盛況のうちに終わりました。

職員も図書委員を通して学生と一歩踏み込んだお付き合いができ、それが図書館の活性化にもつながっていると思います。今後も学生の声に耳を傾けながら、図書館のよりよい環境づくりに努めようと思っています。

大人の読書会 和気町立図書館

徳永ミカ

和気町立図書館で活動している「大人の読書会」をご紹介します。この会が始まったきっかけは、町民の方の「どこの図書館にも、子ども向けの行事や絵本の勉強会などはあるが、本好きの大人が気楽に参加でき、楽しめるような大人のための会があってもいいんじゃないか」という一言からでした。

確かに当館では、絵本の勉強会や読み聞かせは以前からありましたが、一般向けの活動は行っていませんでした。堅苦しくなく、様々な年齢の人が集まって、気軽に話ができる場



にしたいと、まず友人への声かけから始められました。そして、今後の運営方針などを話し合うために最初の会を持ったのが、平成十五年七月でした。その時には地元の新聞社に取材をお願いし、今まで図書館を利用したことがない方にも参加してもらえよう記事にしてみました。はじめの頃は、平日の午後集まっていたのですが、中・高校生や平日仕事をしている方も参加しやすいようにということから、現在は毎月一回、第二土曜日の午後二時から四時までの二時間、お茶を飲みながら和気譚々とした雰囲気の中行われています。

参加者は、ほぼ男女半々くらいの

割合で、毎回、参加される方は、五十代から八十代の方が中心に八人くらいです。雑談の中で、それぞれの心に残った本の話をしていくうちに、次回のテーマが決まり、そのテーマの作品を皆で読みあつて感想を発表しています。

初期の頃はそれと平行して、図書館内の一角に会のPRを兼ねて、テーマを決め、本を展示するコーナーを設けてはどうか、という提案がありました。

第一弾は、その頃、世間でも関心が高かった地震や防災についての本を、第二弾は和気町が、岡山国体の相撲会場になることが決まっていたので、町民の方にもっと相撲に関心を持ってもらおうと相撲に関する本を紹介。第三弾は市町村合併への理解を深めてもらうため、地方自治関連の本を、というようにタイムリーなテーマを並べることで、来館した人も足を止め、会への勧誘もしやすく、徐々に会員も増えてきました。また、普段、あまり動かないような本を手にとってもらえる、というメリットもありました。

この他には「百人一首」「万華鏡」「税金」や地元作家シリーズで「岩井志麻子」や「重松清」、春には「桜」に関する本なども展示しました。

また、地元の作家や郷土史家を招いてお話を伺ったり、月一回の集まり以外にも、近隣の文学館や作家の生家を訪ねたりと、活動の幅を次々とひろげています。

ずっと参加されている方々に、この会の魅力を伺ったところ、共通して言われるのは「気軽に色々な話ができるのが、一番。」とのことでした。その他には「名前くらいしか知らなかった作家の人となりや作品の書かれた時代背景などを知ることが、内容的に難しい本でも興味深く読むことができるようになった。」「本好きの方ばかりなので、自ら持参してきた資料なども見せてもらい、その作家についての見方が変わった。」「皆さんの個性が強く、十人十色。そのため、話題がどんどん広がっていくのが楽しい。時には、雑談のようになることもあるが、それがかえって楽しくて、続けられる理由だと思う」などの感想をいただきました。

この会も今年の夏で丸五年になります。今後も図書館が、世代を越えて、本好きの人が気軽に集える場所であり、親しみを持ってもらえるよう、努力していきたいと思っています。

☆個人会員の紹介☆

岡山市立大宮小学校

石原恵似子



「いつも本に囲まれて仕事ができたら」と、学校司書が何かもわからないまま、岡山市の学校司書になりました。今から二十年以上前のこと

です。現在は、岡山市郊外の児童数六十名の小規模校に勤務しています。ご存知のように岡山市では、市立の小・中・高校一三三校全校に、専任の学校司書が配置され、子どもと本を結ぶ仕事をしています。学校司書は学校図書館の管理運営を担当し、子どもと本との出会いのきっかけを作っています。いろいろな機会を見つけて絵本の読み語りや本の紹介・ブックトークをしたり、調べ学習では情報の検索の仕方などの説明もします。図書館だよりや新刊案内・各種ブックリストなどを作成し、配布します。貸出・返却・予約・レファレンスなどの日常的なサービスもします。読書週間や長期休業中の開館

日などには、教職員や図書委員会の子どもと一緒に、本に結びつくような図書館行事もします。

学校でさまざまな取り組みや働きかけをするのですが、なかなか子どもが自主的な読書に結びつかない現状があります。お話を聞いてもらうことは喜ぶけれど、「本を読むのは面倒くさい」という子どももいます。保護者の中には、図書館や本に興味や関心があり無難な方もおられます。校内の活動だけでは限界を感じ、地域の公民館や児童館と連携をすすめてきました。

二〇〇六年春から岡山市立山南公民館では、「山南子ども読書フェスティバル」を開催しており、そのプレイベントとして、春休み中に「えほんだいすき！〜みんなで絵本を楽しもう〜」という講座を子どもとその保護者を対象に開いています。学校司書や公民館職員、中学校区の主任児童委員やボランティアグループのスタッフからなる実行委員では、子どもと一緒に絵本に出てくるお菓子を作り、同時に読み聞かせを行うことで絵本に対する興味や関心をより深めてもらおう、保護者にも絵本の紹介をすることで、子どもと本のかかわりについて考えてもらおうきっかけになれば、と考えています。昨年は小さな子どもが作れるお菓

子をということで、豆腐を入れた白玉だんごを作りました。大人も子どもも一緒におだんごを作って食べ、「おだんごころころ」(坪田譲治作・童心社)の大型紙芝居や『あるくおだんごくん』(深見春夫作・PHP研究所)の読み語り、ストーリーテリング『だんごむこ』、『だんご3兄弟』の歌なども行いました。会場では、おだんごがでてくる絵本や紙芝居などを読んだり、「だんご♪だんご♪」と歌って、楽しそうに子どもの姿を見ることができました。



今年の「えほんだいすき！」では、一緒にクッキーを作っておはなしの世界を楽しむ計画が進行中です。「山南子ども読書フェスティバル」

もそうですが、継続して行うことで行事として定着し、地域のみなさんの理解と協力が得られたなら、子ども読書環境もきつと豊かになることと思います。

津山市立図書館と美作大学附属図書館との相互協力について

津山市立図書館
美作大学附属図書館

平成十九年五月二十九日に津山市立図書館と美作大学附属図書館は相互貸借、文献複写、レファレンス、文化活動の推進に関する相互協力協定を締結した。以下は、美作大学附属図書館が「第三十七回私立大学図

書館協会 中国・四国地区研究会』で発表した内容を基に構成・加筆している。

一 相互協力協定締結までの経緯

当時、津山市立図書館内において、美作大学に返却ポストを設置できないかと考えたことがきっかけだった。美作大学は市内唯一の大学というところもあり、学生の利用者も多く、貸出図書のリサイクルのしやすさが結果として更なる貸出の増加につながるのではということを目指したのである。

他館との相互貸借については、市立図書館は岡山県図書館横断検索システム・図書館間相互貸借システムを利用しているが、大学図書館はこのシステムに参加していなかった。

このため、県のシステムを経由することなく、直接、相互貸借を行うことで迅速な対応が可能になり、利用者サービスの向上につながるものと思われた。

また、市町村単位の公立図書館と私学の大学図書館との相互協力は県内で初めてということもあり、市民へのPR及び行政内部へのアピールにもなるという側面があった。このような状況の中で大学側に働きかけをしたところ、最終的には津山市と美作大学の間で、図書館の相互協力協定を結ぶことになったものである。大学図書館側のメリットとしては、

市立図書館側のものとは共通する部分もあるが、以下のような点を挙げる事ができる。

①自館にない資料を速く、無料で入手できるため学生の利便性が高まる。

②娯楽・読みもの的な図書を借受できるため経費の有効活用ができる。③図書館の存在感を内外にアピールできる。

二 相互協力協定により実現したサービスの内容

①個人WEB予約図書及び図書館間貸出図書は、市立図書館職員により大学図書館に配送され、大学図書館カウンターで受け取ることができる。(月平均 約二十六冊)

②個人貸出図書及び図書館間貸出図書は、大学図書館のカウンターまたはブックポストに返却でき、大学職員により市立図書館の返却ポストに配送される。(月平均 約一二〇冊)

③市立図書館から大学図書館にレファレンスの問い合わせを行った。(一回)

④美作大学主催の新生入生向け市長講演会で、市立図書館側が出張利用者登録を行った。

⑤後期開講にあわせ、大学への出張利用者登録を行った。

⑥大学祭への団体参加として市立図書館の自動車文庫展示・巡回を行った。

⑦市民・学生を対象として、市立図書館において大学図書館と共催で協定締結記念講演会を開催した。



三 今後の展望と課題

公立図書館や大学図書館サービスというそれぞれの狭い世界にとどまらぬよう、積極的に外部との連携・協力を進め、さまざまな事業を企画・実施することにより、「図書館」の存在を市民や学生にアピールし続けることが重要である。このことが、図書館に関する市民・学生の認識や職員の意識の変化につながる

のではないかと願っている。

さらに現在、津山市・美作大学・津山高専の三者で図書館の利用に関する包括協定を締結する話も進んでいる。将来的には資料の分担収集や行事の共催、津山市が所有する貴重資料の電子図書館化などの事業にも取り組んでいきたい。また、新図書館をオープンした美作高校など、他の学校図書館も含めた津山市内の相互協力ネットワークの構築も目指して協力していきたいと考えている。

第二十五回中国地区学校図書館研究大会(岡山大大会) 報告

去る十月十八日(木)・十九日(金)の二日間、県内はじめ中国五県から六百名あまりの学校図書館関係者が「生きる力と豊かな心を育てる創造的な学校図書館」のテーマのもとに集い、岡山市立芥子山小学校、岡山県立岡山操山中学校・高等学校での公開授業も含めて、熱心に研究を深めた。

大会の概要

第一日は校種別公開授業および研究協議を行った。小学校の公開授業では、一年・二年・三年・五年生のクラスでの国語の授業を行い、研究協議は、低学年、中学年、高学年に



分かれて行った。

中学校では、一年生がコミュニケーション学習のブックトークについて、二年生がレクチャー英語学習のプレゼン発表、三年生は総合的学習の時間で卒業研究を進める上での課題追究学習の改善の方策を考えるために、県立図書館の担当者を講師としての授業であった。高校では、総合的な学習の時間（未来航路プロジェクト）として、一年生七クラスで大学の学部・学科研究のグループ別発表が行われた。研究協議は、中学校、高校別に行われた。

第二日は、岡山衛生会館、岡山市民会館、岡山総合福祉会館の三会場、十四の分科会が開催された。今

回は、学校図書館の活性化を図る運営、本と親しむ子どもを育てる学校図書館、主体的な学習を支える学校図書館、地域に開かれた学校図書館、システム化された機能を生かした図書館活動というテーマで、それぞれの校種に分かれて開催された。

どの分科会においても、それぞれのテーマで意欲的な研究の発表や実践報告、質疑応答、討論、情報交換、助言があり、分科会の限られた時間では足りないくらい活発な話し合いがなされ、実りあるものとなった。

午後から、岡山衛生会館で開会式を行い、続いて、記念講演ではアニメーション映画監督の高畑勲先生に「映像の魅力と怖さ」という演題で御講演いただいた。

ドキュメンタリーなど、映像が見るものに直接訴えかける力には大きいものがあるが、同時に、見せたくないものは操作され隠される怖さもあるというお話から始まって、特に映像の怖さに焦点を当てたお話であった。子どもに人気の、一見穏やかに見えるアニメに潜む毒の御指摘や、現代では、映像に観客を巻き込む形の映画作りが主流になっており、観客は主人公と一体化し自ら想像力を働かせなくても「ドキドキ」しながら映像に参加できること、かつてのような「ハラハラ」させる映画…

…これは観客が能動的に想像力を働かせなければ感情移入できないが、主人公以外の登場人物にも感情移入できるものである…が少なくなってきたことに対する危惧の念を、現代の世相とからめてお話下さった。最後には御自身が監督を務められた「アルプスの少女ハイジ」の映像も見せて下さって、懐かしく思うとともにあつという間の九十分であった。その後、中国五県の現状報告、全国学校図書館協議会森田盛行さんから、「学校図書館の現状と課題」と題して、学校図書館をめぐる最近の国の動きや学校図書館の果たす役割などについて、わかりやすく具体的な内容の報告があった。

昨年の「全国図書館大会（岡山大会）」に続いて、県下の先生方にはたいへんお世話になり、ありがとうございます。

（岡山県学校図書館協議会事務局）

岡山県図書館協会活動報告

○十二月十三日（木）
 教養講座「地方出版物の昨今」
 （参加四十三名）

講師・川上 賢一氏
 （株）地方・小出版流通センター社長
 ○二月八日（金）
 製本講習会（参加六十名）



講師・高尾 斎氏（キハラ株）

毎年好評な製本講習会ですが、今回も多く参加があり、破損資料の修理と和本の製本を行いました。日々の業務に役立てるため、みなさん熱心に取り組まれ、講師の先生への質問も多くありました。

平成二十年三月三十一日
 〒七〇〇一〇八二三
 岡山市丸の内二一六一三〇
 岡山県立図書館
 メディア・協力課 図書館協力班内
 岡山県図書館協会
 会長 渡 辺 真 道
 （〇八六）二二四一―二二六九